

槐

かい

岡井省二創刊

令和4年3月号

令和四年三月一日発行 第三十巻第二号
平成二二年九月十八日第三種郵便物認可
通巻第三六九号（毎月一回）日発行



花道

高橋将夫

地下街で見失ひたる恵方かな
どのあたりからが余生か絵双六
御降りの音こちよき夢見かな
数の子の命を食べるめでたさよ

虚 貝 を 啄 ん で ゐ る 初 鴉

こ の 星 が こ ろ が る 時 空 初 御 空

空 つ ぽ の 堪 忍 袋 お 元 日

雑 煮 餅 よ く 延 び て を る 平 和 か な

双 六 の 最 後 に 介 護 施 設 あ り

去 年 よ り 気 温 が 高 く な る 今 年

花 道 の 先 に 二 人 を 待 つ 焚 火

日月抄

高橋将夫 推薦

一人旅さいころ振つてよもつくに

阪倉孝子

短日や母はどこかをいつも褒め

三木 亨

水平線菊を育ててをりにけり

久保夢女

狐火や心の燐が遊離せり

出利葉孝

橋叩き三途の川を渡る冬

中西厚子

無防備に受け入れてゐる冬日なた

柴田靖子

枯菊を焚くや佛の匂ひする

中 貞子

窓際の母の居場所や日向ぼこ

田中美恵子

古時計刻を正すや年新た

井上静子

右手に箸左手にスマホ年の蕎麦

安野真澄

はぐれ星流星となり闇を切る

竹村 淳

初雪の隠しきれない土の色

時 澤 藍

車列みな無事の家路へ冬灯

阿部さちよ

湯あみして心身一張羅歳の暮

高野 昌代

熱爛や四角四面の崩れやう

中島 昌子

瑠璃玉のひとは懺悔実南天

杉原ツタ子

槐集

高橋将夫選

身心の煤を沸ひて発光す

枚方 阪倉 孝子

見えぬもの見えて来たりし寒林に
櫻炭来し方はぜてをりにけり
一人旅さいころ振つてよもつくに

精霊の安らぎ深き枯蓮

黒人も白人もその息白し

守口 三木 亨

初雪が一夜にこの世リセツトす

浮寝鳥ひつじを数へ眠りけり

媼みな背筋を伸ばし大根焚

短日や母はどこかをいつも褒め

胸に抱くほむらも欺くや葉鶏頭

竹原 久保 夢女

太陽をあがめ檸檬とはなりぬ

水平線菊を育ててをりにけり

走るでも歌ふでもなし十二月

裸木や肩の力の抜きどころ

世情など啄むばかり浮寝鳥

大阪 出利葉 孝

狐火や心の熾が遊離せり

凍星や刃が背なに刺るごと

鰯起し濤を挑撥高笑ひ

冬ざるるタンク果てなし汚染水

橋叩き三途の川を渡る冬

微笑さへ湛へてをりぬ冬の月

冬霞毎日湯浴みする乞食

血縁の距離の近づく冬初め

見詰めをる刃物が動く冬の夜

無防備に受入れてゐる冬日なた

黄の絨毯しきつめられて神還り

埋火や遠き日ひそと胸底に

洗ひたる大根かがやかす夕日

寂寛とつつみくるもの寒月光

岡崎 柴田 靖子

守口 中西 厚子